

日本のような先進国で身元不明者がいるなんて絶対に許せません

(江澤庸博、海堂尊・監修：救命 東日本大震災、医師たちの奮闘、東京、2011、131-156)

2018年11月30日 災害医学抄読会 <http://plaza.umin.ac.jp/~GHDNet/circle/>

「日本のような先進国で身元不明者がいるなんて絶対に許せません」

宮崎県歯科医師会大規模災害対策本部身元確認班班長江澤さん

身元不明の遺体には歯科の所見が欠かせない。これは、3.11 の東北大震災の時の話である。

遺体の収容人数が最も多かったのは、災害から数日が経過したころだった。一日で千体以上ものご遺体が検案所に運ばれる。警察歯科医が検死するのは通常年に数体である。大震災から二カ月が過ぎた5月10日で宮崎県での遺体収容人数は約8850遺体でそのうち身元が判明したのは、約7600件であった。身元不明遺体は1200体にもものぼった。このご遺体の歯から正確な情報をとり、一日も早くご家族にお返しするのが歯科医の務めである。3月下旬からは40名体制となっていた。これまで延べ1500人の歯科医師が検死に当たった。また、当時、津波に関する情報は被災地のど真ん中で暮らす人々には届いていなかった。そのため検案所の場所がころころと変わる場合もよくあった。ご遺体のほとんどは水死であった。だから、震災当初に見つかったのは比較的外傷の少ないご遺体だった。

検死に間違いは許されず、歯は人間の履歴書であるといっているほど人の口の中をのぞくと多くのことが分かる。特に白骨化している遺体は歯しか手掛かりがないといってもいいくらいだった。しかも、検査が簡単で家人が歯の特徴を覚えている場合が多い。それにプラスして、わが国の歯科医院受診率は比較的高いので、その歯科医院を探せば身元確認ができる。また、歯は人体組織の中で最も硬く、死後の物理的・化学的変化が少ない。加えて、発見された時点でおおよその年齢も分かる。男女の性別も歯の大きさから判明する。このように、歯には多くの情報が蓄積されているため、いかに正しく記載し、デンタルチャートを作成するかが歯科医師に求められている。しかし、震災から二カ月もすると遺体の腐乱も激しくなり、歯ぐきから歯が抜け落ちて正確なチャートが取れなくなってくる。そのときには、X線が役に立つ。それからはX線で身元確認を行っていた。

ところが、今度はデンタルチャートが集まったのはいいものの、その資料があまりに膨大でその整理や個人検索の方法にいまいち不安があった。そこで、青木教授の力を借り、データを統合するシステムを導入してもらった。こうした歯科医師の献身的な協力によって身元判明率は91%以上となった。これは国際的にもまれで日本が誇るべき偉業である。